



**新生化学工業株式会社**  
<http://www.shinsei-shiga.co.jp/>

「**金型・成形 プラス<sup>α</sup>企業**」に成長しています。

## 会社概要

商号 新生化学工業株式会社  
 代表取締役社長 宮田庸生  
 所在地 本社/滋賀県大津市蓮池町6番12号  
 連絡先 TEL077-524-7101 FAX077-524-6093  
 URL <http://www.shinsei-shiga.co.jp/>  
 創業 昭和38年4月1日  
 資本金 3,300万円  
 従業員数 227名(2003年3月現在)  
 年商 39億円(グループ全体、2003年3月現在)  
 事業所 本社事業部、市場開発研究所、豊岡事業部、新旭事業部  
 関連会社 新生加工株式会社、シンセイコーポレーション(米)  
 国際規格 ISO9002(1996年4月認証取得)認証番号JQA-1229  
 ISO9001(2000年版取得、2002年4月)  
 ISO14001(1999年3月認証取得)認証番号JQA-EM0389

## 事業内容

精密プラスチック成形部品設計・製造・販売  
 電子・電池・OA機器・自動車・医療機器・公共事業関連等の精密プラスチック部品設計・製造・販売  
 ICタグ設計・製造・販売  
 射出成形用金型設計・製作  
 各種成形機周辺機器設計・製作

## 会社沿革

昭和38年04月 現社長宮田庸生がエアソール部品の開発により大津市雲雀丘にて事業開始  
 昭和40年07月 現在地に移転、株式会社に組織変更  
 昭和47年11月 兵庫県豊岡市に豊岡工場(現豊岡事業部)を設立創業  
 昭和55年11月 本社工場(現本社事業部)増設  
 昭和55年12月 新生加工(株)を設立  
 昭和59年10月 新工場建設予定地に隣接して、新旭町に新旭仮工場を設立創業  
 平成01年11月 新旭工場(現新旭事業部)を設立・仮工場より移転創業  
 平成07年09月 本社工場隣接地に「市場開発研究所」を設立  
 平成08年09月 アメリカ・アトランタにSHINSEI CORPORATIONを設立  
 平成11年03月 ISO14001認証取得  
 平成12年05月 滋賀県環境保全協会より「優良事業所」表彰  
 平成12年09月 兵庫県豊岡市豊岡中核工業団地に豊岡工場(豊岡事業部)を新築移転  
 平成13年02月 大津市環境保全協定締結

# 新生化学工業株式会社環境方針






## 基本理念

新生化学工業株式会社は地球環境の保全に努め、自然環境と調和し、プラスチック成形生産、二次加工生産活動と環境との共存をめざします。

## 環境方針

新生化学工業株式会社は、プラスチック成形、金型、設備機械、二次加工の生産会社として、生産、販売活動をする事業場です。

当社は環境マニュアルを制定し、以下の環境活動を行います。

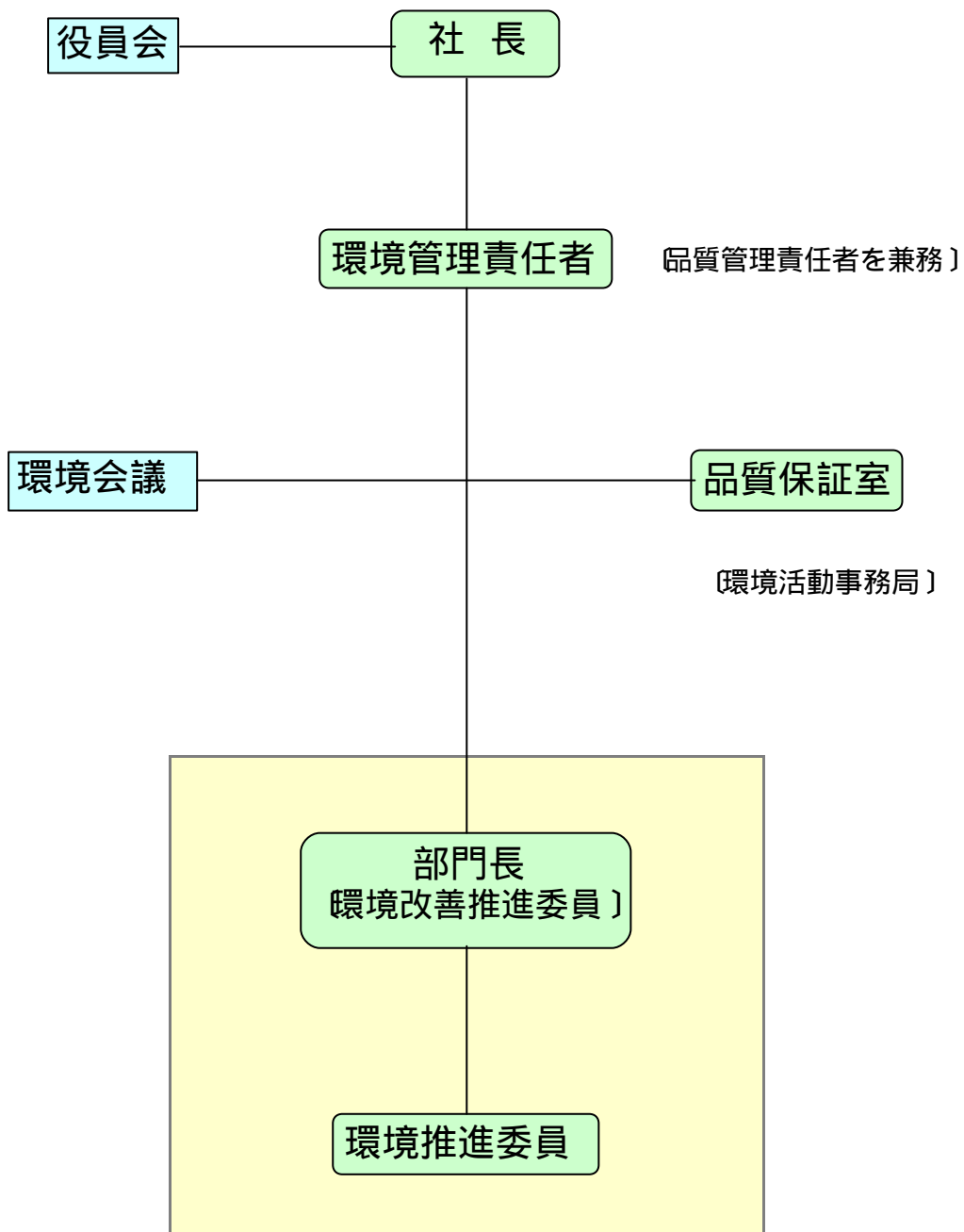
-  当社の事業活動、製品、及びサービスに係わる環境側面を特定しISO-14001の要求事項に沿った環境マネジメントシステムを構築し、維持します。
-  当社における環境方針遂行のための具体的な目的・目標を 制定し、定期的に見直しを行い、環境管理システムの継続的な改善を図ります。
-  環境関連の法律、規制、協定または市、地域が受け入れ当社が同意するその他の要求事項を厳守し、環境汚染を予防します。
-  環境負荷低減のために次の項目に取り組みます。
  - ①地球環境に優しい技術を確立します。
  - ②省エネルギー（省電力）に努めます。
  - ③廃プラスチック等の減量及び再資源化を努めます。
  - ④グリーン購入を推進します。
-  社員、パート、アルバイト、派遣社員の環境に対する意識の向上を図るため、教育・啓蒙活動を行います。

## 環境方針の周知・公開

環境方針は、職場への掲示を行ったり、環境方針カードを社内全員に携帯させ認知させます。また、社外の方には、パンフレットを作成し、ご要望に応じて配布することで公開します。

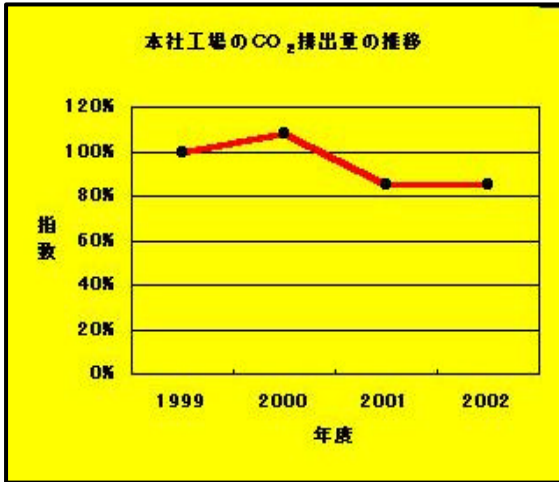
2002年2月8日

新生化学工業株式会社  
代表取締役社長 宮田庸生



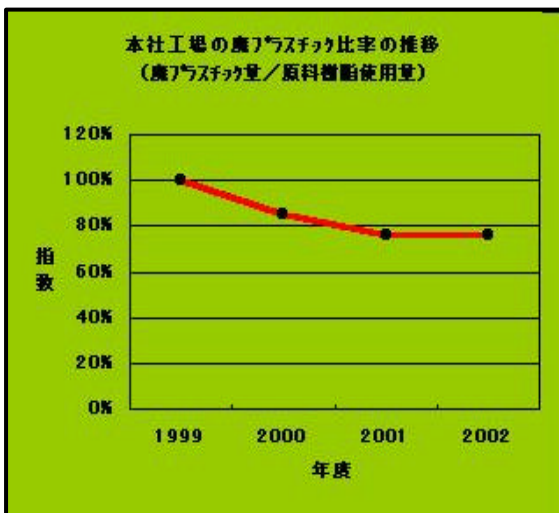
# 環境活動一覽表

No.	環境保全活動の目的		環境保全計画	実施状況
	分野	項目	内容	
1	省エネ	節電	省エネ設備の検討	省電力型電動式射出成形機の採用 約40%採用
			生産の効率化	稼働率の向上
			冷暖房温度管理	温度設定・冷房26、暖房20
			不要照明の消灯	昼休み等の消灯実施
2	廃棄物	廃棄物の減量化、適正処理	廃プラ発生量の削減	生産時、廃プラ発生量の少ない金型の採用及び不良品低減活動
			廃プラのリサイクル推進	分別の推進によるリサイクル業者に売却
			紙類のリサイクル推進	ダンボール、事務系紙類を再生紙に加工
			蛍光灯・電池類のリサイクル推進	北海道の処理業者でリサイクル
			缶・ビン・ペットボトル等のリサイクル推進	分別収集してリサイクル
		北紙削減	裏紙の利用、電子メールの活用	裏紙使用率35%
3	汚染管理	水質汚染	工場排水口での水質測定	基準値以下
		大気汚染	燃焼炉等の保有はなし	(監視・測定の必要な)排ガスの発生なし
		騒音	冷却塔、エアコンの騒音・振動測定 (条例による区分;第2種(住宅))	敷地境界で実施 44-56dB
		振動	(条例による区分;第2種(住宅))	26-42dB
4	化学物質	適正管理	研究所薬品の管理	廃薬品は産廃業者に委託
			PRTTR法への対応	対象化学物質は少量、届け出対象外
		事故への対応	指定可燃物の保管(原料樹脂)	消防訓練の実施(年1回)
			少量危険物の管理(4石)	油漏れ対策の訓練実施(年1回)
		樹脂パレットの漏出防止	安全衛生委員会のパトロールでチェック	
5	温暖化対策	CO2排出量の削減	低公害車の導入	2002年度の購入は0台、導入済み累計3台
			アイドリングストップの推進	社内連絡網により通知
6	グリーン購入	再生製品利用	文具等消耗品	グリーン購入対象製品等の購入を優先
7	環境教育	一般教育	入社時及び定期	定期は年2回実施
		専門教育	有資格者認定及び事後研修	産廃・中間処理業者、最終処分業者見学
		環境情報	社内報による啓発	省エネや廃棄物関連ニュースによる啓発
8	地域社会	清掃活動	定期清掃	工場周辺、通勤路の清掃
9	環境管理	ISO14001 維持	システムの継続的改善	2003.3定期審査受査



工場から排出されるCO<sub>2</sub>の約90%は電力の使用によるものです。省エネ型の成形機を積極的に導入し、2003.3月現在で約43%の成形機が省エネ型に切り替わっています。

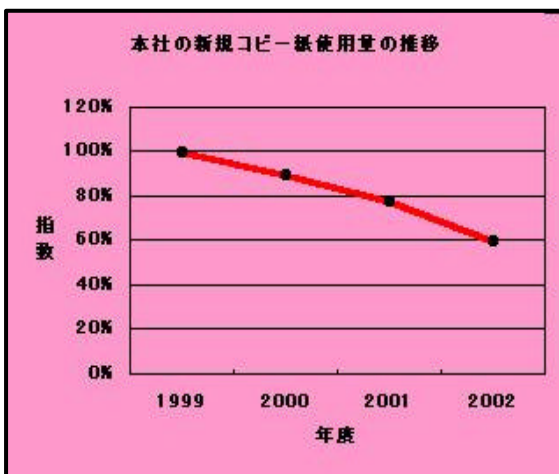
(1999年を100とする)



工場から排出される廃棄物(リサイクル用途も含む)は廃プラスチック、金属屑紙・ダンボール類、廃油、蛍光灯管等があります。

そのうち約70%は廃プラスチックとリサイクル用途向けのプラスチックです。廃プラスチックの少ない金型の採用や品質改善活動の推進、外部でのリサイクルを積極的に進めています。

(1999年を100とする)



裏紙使用の推進(35%)や電子メールの使用を進めています。

(1999年を100とする)

## 外部機関によるISO14001定期審査

7/9

ISO14001認証取得後3年が経過し、認証機関による更新審査を受審、更新が認められました(2002.3月)  
また、2003.3月に定期審査を受審、更新が認められました



## ISO14001 社内・社外研修



ISO14001 社内研修風景  
(内部監査事前研修)  
2002年11月



ISO14001 社外研修  
(産業廃棄物業者見学会)  
2002年7月

産業廃棄物・最終処分場を訪問  
処分状況を見学しました

## 環境教育

8/9



環境一般教育 2002年8月

ビデオでP R T R法の内容と  
身近な化学物質について  
について勉強しました



環境一般教育 2003年1月

ビデオで地球温暖化の現状と  
C O 2の削減法と未来への取り組みに  
ついて勉強しました

## 訓練



緊急事態訓練 2002年12月

生産設備からの作動油の油漏れを  
想定して訓練しました



## 清掃活動

定期的に工場周辺及び通勤路等の清掃活動を実施しています

